

# 山口県感染症発生週報

(第6週:平成26年2月3日～2月9日)

## 1 全数把握感染症

### 【2類感染症】

・結核: 第5週追加 2例(下関2)、第6週 1例(下関)。

### 【5類感染症】

・アメーバ赤痢: 1例(山口)。

・麻しん: 1例(下関)。昨年は山口県内では患者がありませんでしたが、今年、先月(第2週)に続き2例目の届出です。全国的にも、最近、麻しん患者が増加しており、特にフィリピンで感染した例が多いとされています。山口県の患者は、1例目はインドネシアでの感染が疑われ、2例目は国内での感染で、麻しんウイルスの遺伝子型は、2例とも、インドネシア等アジアでの流行株のD8型でした。



麻しんウイルス

CDC / Courtesy of Cynthia S. Goldsmith; William Bellini, Ph.D.

## 2 定点把握感染症(5類感染症)

### (1)特記事項

- ・インフルエンザ: 報告数が増加し、周南でも定点あたり30を超え、警報レベルとなりました。柳井では10を超え、注意報レベルとなりました。迅速診断結果は、A型803例、B型677例、84例は臨床診断・型別不明でした。B型の割合が増加しており、下関、周南、山口、宇部、萩の迅速診断結果は、B型の方が多くなっています。[警報レベル: 萩(2週目)、山口(2週目)、周南(1週目)。注意報レベル: 岩国(4週目)、下関(4週目)、長門(5週目)、宇部(3週目)、柳井(1週目)、防府(4週目)]\*
- ・RSウイルス感染症: 下関で多い状態が続いています。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 山口で警報レベルが続いています。[警報レベル: 山口(16週目)]\*
- ・感染性胃腸炎: 県全体の報告数は減少しましたが、岩国、長門で定点あたり20を超え警報レベルとなりました。[警報レベル: 萩(4週目)、岩国(1週目)、長門(1週目)、山口(3週目)、周南(5週目)]\*

※警報レベル・注意報レベルの基準値詳細についてはHPをご覧ください。  
<http://kanpoken.pref.yamaguchi.lg.jp/jyoho/report2012/keihotyuuhiho.php>

### (2)週別発生状況

疾患名	4週	5週	6週	疾患名	4週	5週	6週
インフルエンザ	1149	1483	1564	百日咳	0	0	0
RSウイルス感染症	108	94	99	ヘルパンギーナ	1	0	0
咽頭結膜熱	15	14	13	流行性耳下腺炎	5	4	11
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	168	220	164	急性出血性結膜炎	0	0	0
感染性胃腸炎	649	688	546	流行性角結膜炎	2	3	4
水痘	84	33	36	クラミジア肺炎	0	0	0
手足口病	6	8	2	細菌性髄膜炎	0	0	0
伝染性紅斑	1	1	0	マイコプラズマ肺炎	0	3	0
突発性発しん	29	34	26	無菌性髄膜炎	0	0	0
				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	3	2

### (3)地域別発生状況

疾患名	下関	岩国	柳井	周南	防府	山口	宇部	長門	萩	全体
インフルエンザ	311	182	51	333	50	314	159	45	119	1564
RSウイルス感染症	59	5	0	19	1	2	6	5	2	99
咽頭結膜熱	0	4	0	4	1	0	2	0	2	13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	17	5	3	20	10	68	38	1	2	164
感染性胃腸炎	71	103	0	126	19	80	65	40	42	546
水痘	16	0	0	4	3	5	5	2	1	36
手足口病	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
伝染性紅斑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発しん	8	0	0	8	3	5	1	0	1	26
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	10	0	0	0	1	0	0	0	0	11
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0	0	3	0	0	1	0	0	0	4
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2